

車椅子ソフトボール／基本的なルール

①フィールド

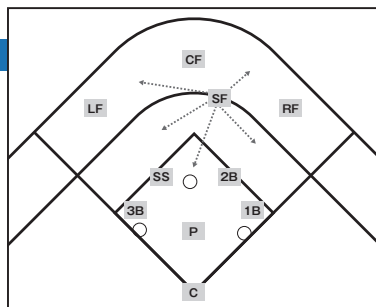
- 野球場：硬い平面に整地されたグラウンドを使用（草や柔らかい土ではない）
- 屋内球場：体育館、倉庫、駐車場
- ファウルライン 150 フィート (45.72 メートル) 以上、直線 180-220 フィート (54.86-67.06 メートル)
- ダイヤモンドは塁間 50 フィート (15.24 メートル)、本塁から二塁まで 70 フィート、8.5inches (21.55 メートル) とする。
- 本塁から二塁の線分上で本塁から 28 フィート (8.53 メートル) の位置に幅 2 フィート (61c メートル) のピッチャーブレードを置く。
- ベース：二塁は直径 4 フィート (1.22 メートル) の白い円、一、三塁は直径 4 フィート (1.22 メートル) の白い半円とする。一塁のみ駆け抜け用ベースをファウルゾーンに設置する。駆け抜け用のベースは、24inches (61c メートル) 四方の白いベース。
- 制限ラインは各塁から 12 フィート (3.66 メートル) で一塁から二塁、二塁から三塁のベースラインに平行に引かなければならない。
- 外野はホームから半径 100 フィート (30.48 メートル) の円で、ファウルラインからファウルラインまでの範囲とする。

②用具

- 参加者は全員、フットプラットフォームのついた車椅子を使用する。
- ボールは 16 インチソフトボールを使用する。

③ルール

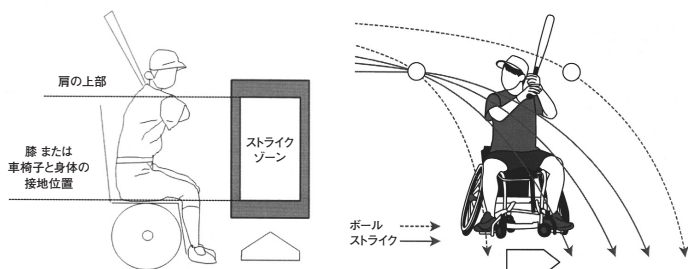
- 1 チーム 10 人の選手で試合を行う。守備につく 10 人目の選手は「ショートフィールダー (SF)」と呼び、投手、捕手の定位置以外のフェア地域のどの場所でプレーしてもよい。
- ※クラス Q が不在の場合は 9 名でプレー
- 5 回 10 点コールドとし、最大 7 イニングまでとする。
 - 審判は 2 人制とし、塁審、球審各 1 名とする。
 - 全打席 1 ストライク 1 ボールから開始する。
 - 2 ストライク後のファウルはアウトとする。



〈投球〉

- スローピッチ・ソフトボールのストライクゾーンは、次の条件を満たすものである。
 - ・投手の手から球が離れて本塁に達するまでの間、アーチ（地面から 1.5 メートル～2.7 メートルの空間）を描かなければならない。
 - ・下手投げで適当なスピードであること。
 - ・ストライクは本塁を通過したときに判断される。
 - ・投球は、本塁の上方空間で、打者が自然な打撃姿勢をとっているときの、打者の捕手側の肩から、両膝の本塁上を通過しなければならない。打者が打席内のどこに位置するかは、ストライクゾーンには関係ない。ストライクゾーンはあくまでも本塁の上方空間であり、これと打者が自然な打撃姿勢に入るときの打者の捕手側の肩、膝の位置がストライクゾーンを決める要素である。違反球を打ったとき、あるいはスイングしたときには不正投球にならない。

- ・守備側チームが、投球せずに故



意に打者を一塁に歩かせるため、投手、捕手、あるいは監督が球審にその旨を通告すれば故意四球「Walk」となる。

〈攻撃〉

- キャスターや後輪も含めた一つ以上の車輪がベースに触れていれば触塁とみなす。転倒防止のキャスターは車輪として含まない。
- 走者は、車椅子に座っていなければならない、ベースタッチは一つ以上の車輪または手でベースに触れている場合のみとする。
- ランナーが車椅子から落ちた場合、その場所から再度乗らなければならない。またベース上で落ちた場合、体の一部が車椅子に触れていれば、ベース上にいると判断される。
- 走者は地面や他者の車椅子が止まる場所に手足を出してはいけない。もしもした場合は、ディレドデッドボールとなる。
- 打者は打つときに地面に下肢を接触させてはいけない。接触させた場合はボールデッドになり、打者はアウトとなる。走者は元のベースに戻らなければならない。

〈守備〉

- 投球ボールが投手の手から離れるまで、すべての内野手は内野制限ライン上またはそのラインより内側にいなければならない。違反した場合、審判はすぐに打者を一塁に進める。その違反は、フォアボールとみなす。
- 投球ボールが投手の手から離れるまで、SF を除くすべての外野手は外野制限ラインより後ろにいなければならない。
- 野手は地面に足をつけた状態でプレーをしてはいけない。もしも地面に付いた場合でも、足を元に戻してからプレーを再開することが出来る。違反をした場合は JSA のルールに従ってディレドデッドボールとなる。
- 選手が車椅子の座席から臀部が離れている行為をリフティングといい、不正行為とし、JSA のルールに従ってディレドデッドボールとなる。

〈その他〉

- 野手が走塁を妨害した場合、走塁妨害を適用する。
 - ・野手がボールを持っていないとき。
 - ・野手がボールの処理をしようとしていないとき。
 - ・野手が空タッチしたとき。
 - ・野手がボールを持って、走者を塁（ベース）から押し出そうとしたとき。
- 走塁妨害が発生したとき（ランダウンプレー含む）はディレドデッドボールとなり、走塁を妨害された走者およびほかの走者は、審判員の判断により妨害しなければ達していたと思われる塁までの安全進塁権が与えられる。
- 再出場（リエントリー）ルールを採用
スターティングメンバーはいったん試合から退いても、一度に限りいつでも「再出場」できる。ただし、自己の元の打順を受け継いだプレーヤーと交代しなければならない。スターティングプレーヤー以外のプレーヤーが再出場したときは再出場違反になる。

④クラス分け

車椅子ソフトボールには持ち点制度が設けられており、障がいに応じてクラス I (1 点) からクラス III (3 点) に分けられる。

- クラス I
腹筋、背筋の機能がなくもしくは弱く、座位バランスが悪い。主に損傷部位が T-7 以上。
- クラス II
腹筋、背筋の機能があり、バランスが保てるが、下肢の機能および旋回動作が弱い。主に損傷部位が T-8 から L-2。
- クラス III
下肢の機能があり、旋回動作も十分にできる。主に L-3 以下または下肢切断。健常者も含む。
- クラス Q
頸椎損傷者。またはそれに準ずる上肢に障がいがある。すべてのチームは出場選手の中に頸椎損傷またはそれに準ずる選手（クラス Q）を最低一人入れなければならない (0 点)。
クラス Q 選手が不在の場合は 9 人で守備を行い、打順 10 番目は自動的にアウトとなる。女子選手はそれぞれの点数からマイナス 1.5 点とする。ゲームに参加している選手の合計持ち点が 21 点を超えてはならない (小数点切り捨て)。健常者はクラス III とする (健常者の女子選手は 1.5 点)。